

ふるさとの 其の46 誇り

甲斐源氏の家伝「小笠原流」②

小笠原家により育まれた礼法



小笠原長清が受け継いだ弓馬の技は現在でも各地で披露されています(2枚ともアヤマ・やぶさめフェスタにて)。



小笠原流流鏑馬

前号でご紹介したとおり、甲斐源氏に伝わる家伝は「糾方的傳」といって加賀美遠光より子の小笠原長清へと伝えられます。

この糾方は小笠原家の代々惣領へと伝わり、育まれていく中で「小笠原流」として世に知られることとなります。

弓馬に堪能な家柄「小笠原家」

小笠原家の始祖小笠原長清は、南アルプス市小笠原を本拠地としたことから小笠原姓を名乗ることとなります。父遠光の血を受け継ぎ、「弓馬の四天王」と称されるなど、弓馬の術に優れ、鎌倉幕府において流鏑馬などの弓馬儀礼の形式・作法を定める際に重要な役割を果たします。

弓馬儀礼の際の射手や諸役に長清をはじめ代々小笠原家が名を連ねるなど、弓馬に堪能な家柄であったといえます。家系図によると長清は頼朝の師範となり、長清の子らも代々、執権や天皇、室町幕府においても將軍家の師範役を務めたとされて

折形の数々

現代日常的に使っている熨斗袋などももともとは送るものにあわせて形を折ったもので、これを礼法では折形といいます。(2枚ともふるさと文化伝承館にて)



紐結びの数々

古来、結びには「作業結び」と「儀礼結び」とがあり、儀礼結びはやがて「装飾結び」として現代に数多く伝わっています。



います。しかし、鎌倉時代において師範となったとされる記述は他の資料には見当たらず、將軍家の師範としての活躍がみとめられるのは室町時代の中頃以降で、信濃守護家となる惣領家(信濃小笠原家)から分かれた京都小笠原家と呼ばれる系統により足利將軍家の師範家として定着します。

「礼法」といえば「小笠原家」

伝承にはいくつかありますが、室町時代に「弓」「御(馬)の法に「礼」が加えられて「礼法」として整えられたとされます。戦国時代の長時の頃、武田家に破れ信濃を離れ各地を転々としながらも、故実を積極的に学び礼法の伝授活動を精力的に行った信濃小笠原家が、小笠原家の故実に他の各家の故実を取込んで武家の礼法を大成していったと考えられています。

いつ戦になるかわからない戦国期であるため、糾方が断絶してしまうことを避けるために、近親の

分家や有力家臣にも伝授したことで、江戸時代になるとそれら諸家の活動によって徳川將軍家から庶民に至るまで小笠原家の礼法が広まり、「小笠原流」の名が礼法の代名詞として広く浸透してゆくこととなったのです。

やがてその精神は立居振舞などの礼法に受け継がれ、今日、冠婚葬祭や日常生活におけるマナーとして日本文化の中に脈々と受け継がれていくのです。

ふるさと文化伝承館

エントランス展

「小笠原流礼法のこころとかたち」
12月15日(水)まで

県立博物館

開館5周年記念特別展

「甲斐源氏 列島を駆ける武士団」
12月6日(月)まで

南アルプス市にある貴重な資料の数々も展示されています。

※2 故実…昔の儀式・法制・作法などの決まりや習わし。模範とすべき先例。

※1 糾方…弓法や弓馬故実のこと。的伝…正統を受け継ぐこと、直伝。